



《高島屋美術部》 富岡鉄斎 1919(大正8)年頃 【I・II部展示】

〔第I部〕
美術部の
創設



《アタタ立に》(部分)
竹内栖鳳
1909(明治42)年
【I部展示】

The Art of
the Business of Art

高島屋史料館
リニューアル
オープン記念展
第2弾

美を

あきなら

美術国の春、
まさ たけなわ
将に闌ならん

〔第II部〕
アートの
百貨店

2020年 9月1日[火]—12月13日[日]

〔第I部〕9月1日[火]—10月26日[月]

〔第II部〕11月7日[土]—12月13日[日]

※会期は変更となる場合がございます

開館時間 = 10:00-17:00(入館は16:30まで)

会場 = 高島屋史料館企画展示室

休館日 = 火・水曜日(9月1日[火]・2日[水]は開館)

10月29日[木]-11月6日[金]は展示替のため休館 【入館無料】

《天然竹花籠 無》
四代 田辺竹雲斎
2017(平成29)年
個人蔵
【II部展示】



高島屋史料館

Takashimaya Archives

高 Takashimaya

本展は今春開催予定でしたが、会期を改め、展示内容を一部変更して開催いたします。

高島屋史料館リニューアルオープン記念展 第2弾

美をあきなら

The Art of the Business of Art

高島屋 第1章 美術部

高島屋美術部創設の起源は、1909(明治42)年に開催した高島屋初の美術展覧会「現代名家百幅画会」にあります。

以来、高島屋美術部は各時代をときめく作家たちの新作を販売し、信用を重ねてきました。



《宗右衛門町の夕》 島成園 1912(大正元)年頃 個人蔵 【1部展示】

高島屋は、明治の初めより染織品の下絵を依頼していた京都の画家たちと深い結びつきがありました。1909(明治42)年に高島屋初となる美術展覧会を開催、これを契機として美術部(美術品の展示・販売部門)を創設しました。美術部は画家たちの新作展覧会を次々に開催し、作品は高島屋の名の信用のもとに、美術を愛好する人々に販売されました。

本展では、110年以上もの長きにわたり、人々と美術を近づけてきた高島屋美術部、そして企業としての芸術文化への取り組みについて、さまざまな作家との交流エピソードと共にご紹介します。

※本展は会期をI部(戦前)・II部(戦後)に分け、展示作品・資料を大幅に入れ替えて構成します。

会期中、当館アーカイヴス展示室におきましても企画展関連資料を展示します。

美術部とは？

美術部は年間約50回におよぶ展覧会の企画・運営のほか、社内での美術に関するあらゆる企画に参画する百貨店における美術のエキスパートです。毎週多くの新作が展示される高島屋の美術画廊では、最新のアートシーンを肌で感じることができます。

作家たちとの交流 第2章

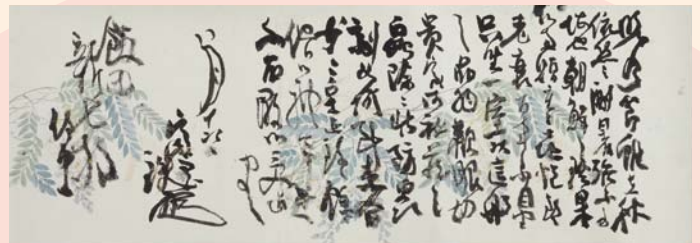


《浴後》 北野恒宮 1912(明治45)年 京都市美術館蔵 期間限定展示 【10月1日[木]—10月26日[月]】



《手吹飾箱 紅葉》 藤田喬平 年代未詳 【II部展示】

明治中期、輸出染織品製作に端を発した高島屋と作家たちとの交流は、1911(明治44)年の美術部創設以降、さらに拡大していきました。



富岡鉄斎書簡 年代未詳 【1部展示】

百貨店のアートの第3章



《世界報島・姉島》 徳丸鏡子 2013(平成25)年 【II部展示】

高島屋は美術品販売のみにとどまらず、時代の先端を行く芸術に共感し、自らの事業を通じてそれを広め、また支援してきました。



《無題》 吉原治良 1958(昭和33)年 【II部展示】



【アクセス】 南海電鉄・大阪メトロ「なんば駅」、近鉄・阪神「大阪難波駅」より徒歩約10分
近鉄・大阪メトロ「日本橋駅」5・10番出口より徒歩約8分
※専用駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

【住所】 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館3階
TEL. 06 (6632) 9102

当館ホームページにて本展関連動画を公開しています

<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/>

